グルマーイの言葉についての瞑想

イーシャ・サーデサイ

カリ・ユガ、サーダナーの時

私はサッツァングでグルマーイがユガについて語ったことに大変興味をそそられました。インドの教典によれば、私たちは現在カリ・ユガに生きています。グルマーイは、人々がカリ・ユガについて語る際、恐れや不安と共に語る傾向があり、また混沌（こんとん）や破滅と同義語のように捉えていると述べました。

実際には、すべてのユガにおいて善と破壊の両方が起こってきたのです。インドの教典や物語をざっと読むだけでも、このことは明らかです。しかし、どういう訳か、カリ・ユガにおける悪は、それ以前のユガよりも大きな重みを持つと考えられています。

ですから私は、グルマーイがインドの聖人たちがカリ・ユガの到来を恐れなかったと語った時、とてもありがたく思いました。彼らは恐怖に委縮することなく、むしろこのユガを機会と捉えました。皆にサーダナーを行い、神の名をチャンティングし、神の名を一度唱えるだけで悟りに到達し得ることを理解するように促しました。むしろ、彼らは真の危険は神の名を忘れることだと考えました。詩聖ナームデーヴがアバンガの中で、こう述べたように。「おお、神よ、あなたの名は甘露よりも甘い。しかし、おお、ケーシャヴァよ、なぜ私のマインドはそれを唱えないのか？」

もちろん、サーダナーは良い時も悪い時も行うことができ、また行うべきです。太陽の光が見えているか、あるいは視界から隠れてしまっているかは関係ありません。しかし、私は気づきました――あなたもそうかもしれません――物事がうまくいっていない時、私たちはサーダナーをさらに推進しようと感じる傾向があるのです。順調な時、修行を明日、次の日、また次の日と先延ばしにして「のんびり」過ごす

のは簡単です。その間ずっと、私たちは自分の外側で見たり聞いたり感じたりできるものに基づく、偽りの（あるいは少なくとも一時的な）安心感に身を包んでいます。

しかし、そうした外側の基盤が揺らぎ始め、1 年前や 10 年前には考えられなかったような形で崩壊の危険が突然想像できるようになった時、常に安定したものを求めるのは自然なことです。サムサーラの海が私たちの周りでどれほど渦巻き、しぶきを上げようと、私たちが間違いなく安息を見いだせる場所はどこでしょうか？それは私たちの内側にある場所、グルが私たちを導く住まいであり、勤勉なサーダナーを通してのみ到達できる場所です。

さて、質問させてください。それは真実ではありませんか?

© 2026 SYDA Foundation®. 著作権所有。